

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那特別支援学校

学校番号

117

学校教育目標	児童生徒一人一人の病気や障がいの状態に応じた適切な支援を通して、「児童生徒一人一人が輝く」教育を目指す
--------	---

自己評価【 小学部 】

評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現取組を継続し、体験的な活動と地域資源の活用を通じた学びの充実を図るとともに、教育活動の公開等、地域への積極的な情報発信に取り組む。</li> <li>・学習状況を的確に捉える力と学習評価の在り方への課題がある。</li> <li>・働き方改革を意識した業務の見直しや精選、組織的体制づくりと組織力の強化に取り組む。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づいた学習活動の充実（キャリア教育、地域資源の活用等）</li> <li>・情報化推進リーダーを中心とした個々の教員の指導力向上のための積極的なICT活用の促進。</li> <li>・職員の危機管理意識の向上と疾病・事故の未然防止対策及び教育の強化。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、学部会、教科会、学年主任会を通じた取組の推進。</li> <li>・学部の役割や各々の分掌、専門性を活かした推進役の位置付け。</li> <li>・各分掌の取組との連携（教科会、キャリア教育、主題研究、学校安全等）。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づいた「支援と評価の年間計画」の作成や授業実践とPDCAサイクルによる継続的な改善。</li> <li>・発達段階や生活年齢に即した授業実践や改善、地域資源の活用等。</li> <li>・モデル授業や合同授業等を通じた、ICTの効果的な活用や工夫。</li> <li>・全職員が協力して健康や安全に関する指導の場面を想定し、教育環境や指導方法、教材の工夫を行いながら児童の健康・安全を守る。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価</li> <li>・職員アンケート及び職員からの意見</li> <li>・連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想</li> <li>・学校評価アンケート</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における制限下において児童の学びの場を保障すべく、柔軟かつゆとりある活動を工夫・計画し、安心・安全な教育活動の実施を行った。</li> <li>・小学部段階におけるキャリア教育の推進に取り組んだ（教員・保護者）。</li> <li>・プログラミング教育に関する調査・研究を行った。</li> <li>・該当分掌と連携し、校内の危険個所の洗い出しや全校職員への周知、修繕等の改善を行った。</li> </ul>

評価の視点	評価
① 児童一人一人の目標に対する学習の成果や、もてる力の伸長が認められたか。	Ⓐ B C D
② 学習指導要領に基づいた学習の計画・実践・評価を実施することができたか。	A Ⓑ C D
③ ICTを活用した学習活動の工夫・改善に取り組み、実践の蓄積ができたか。	A Ⓑ C D
④ 児童の健康・安全を守るために、組織的に取り組むことができたか。	A Ⓑ C D

成果・課題	総合評価
<p>○児童の発達段階や課題にあった学習活動の探求や工夫を行うことにより、学部目標に対する意識をより高めることができた。</p> <p>○学部内における学年間での情報共有を推進してきたことが、6年間を俯瞰する視点とキャリア教育に対する意識の向上につながってきている。</p> <p>▲ICTを活用した学習活動の実践の蓄積をより充実させる必要がある。</p> <p>▲教育活動についての学部間における情報共有・連携への意識が曖昧であり、円滑に進めることが難しい現状がみられる。職員の意識がより強化されるとよい。</p>	A Ⓑ C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づき学習活動の見直しによる充実・改善（地域資源の活用等）を図る。</li> <li>・情報化推進リーダーを中心に個々の教員の指導力向上や積極的なICT活用の促進、実践の蓄積等、取組の強化に取り組む。</li> <li>・学部間の連携に努め、指導体制や業務内容の見直しや効率化を図るため、部主事・各分掌間での情報共有の仕方を工夫する。</li> </ul>
---------------	---

自己評価【 中学部 】

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源や人材の活用と連携を図った学習を推進する。</li> <li>・保護者との共通理解や関係機関との連携により、保護者との信頼関係の強化を図ることが必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で安全な生活ができる環境を整えるとともに知識と態度を育てる。</li> <li>・挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣を確立する。</li> <li>・連絡帳や通信、懇談等を通して、保護者との効果的な連携を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任会や教科担当者会、学年会、学部会が連携した支援体制</li> <li>・校内および関係機関とのケース会議による校内外との連携会議</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通して、キャリア発達の視点を取り入れた教育計画を立てるために必要な手立てを整える。</li> <li>・連絡帳や通信、HP、懇談等、連携ツールを活用した保護者との共通理解の形成を進める。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価 ・職員アンケートや職員からの意見</li> <li>・連絡帳や懇談会等での保護者の意見 ・学校評価アンケート</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の系統性を考慮しながら、地域資源や人材を活用した校外学習・泊を伴う校外学習を計画・実施した。</li> <li>・系統性や関連性を図るための手立てを用意し、部内で共通理解を図った。</li> <li>・さまざまな連携ツールを活用し、伝え方や聞き方の工夫をしながら家庭や関係機関との連携を図り、生徒理解や支援方針、方法の共通理解を進めた。</li> </ul>
評価の視点	評価
①生徒が楽しく生き生きと学校生活を送ることができたか。	Ⓐ B C D
②生徒の情報が職員間で十分に伝わり、個々に応じた適切な対応ができたか。	A Ⓑ C D
③保護者や関係機関との協働・連携がとれたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>○日常的に情報交換し生徒理解や指導方針を共有して、チームでの支援を進めた。</p> <p>○生徒の成長や課題を共有できる伝え方を工夫し、保護者との共通理解と連携を進めた。</p> <p>▲生徒の課題や状況に関する情報共有の弱さや発信内容に課題がある。</p> <p>▲学年・学部間の関連性や発展性の把握が弱く、系統的に学習を行うことが難しい。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーター（以下Cd）を各学年の推進役に位置付ける。Cdを中心に学年会、中学部Cd会、学部会での生徒理解の会を運営し、生徒の状況や指導支援の取組の過程、今後の方針等について共通理解と指導支援の在り方を検討する。職員会議等で全職員への共通理解を図り、組織的に進める。</li> <li>・教科担当者会で各教科・領域等の学年毎の学習のねらいや題材一覧表を基に、学年間や教科等との関連性・系統性を把握し、年間計画の見直し・改善を図る。教科会と連携し、学部間の接続や系統性を考慮した学習計画の工夫・改善に取り組む。</li> </ul>

自己評価【 高等部 】

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理意識を持ち、十分な引き継ぎや連絡により、全職員が情報共有の徹底を図る必要がある。</li> <li>・コロナ禍での活動内容を、保護者、地域への情報発信の工夫が必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や電話等を利用して、保護者との連携を密にとる。</li> <li>・生徒一人一人の発達段階や学習到達段階に応じた指導により、自己実現を目指すための基礎的、基本的な知識と技能を育成する。</li> <li>・コロナ禍でも感染対策を徹底しながら喜びを実感できる指導内容・指導方法を追究する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、学部会、各分掌からの提案を積極的に取り上げ、連携を図りながら、生徒一人一人にあった支援体制を構築する。</li> <li>・校内、校外の関係諸機関とのケース支援会議を行い、迅速に対処する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けた学習、生活支援の充実を図る。</li> <li>・学級通信を定期的に発行し、連絡帳や懇談等で保護者と意見交換を密にし、気になる点は学部・学年で共有し、組織的に対応する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想</li> <li>・学校評価アンケート及び職員からの意見</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に関する情報を学部内で共有し、必要に応じて校内外でのケース支援会議を実施した。</li> <li>・生徒や保護者に卒業後の就労先について話し合う機会の場を提供した。</li> <li>・働くための基礎的な知識や態度を身に付けさせ卒業後を見据えた支援に心がけ、現場実習等を通して関係機関との連携ができた。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 保護者や校内外の関係諸機関と連携し、協働して生徒個々の支援ができたか。	A (B) C D
② 進路実現に向けた学習や生活支援の充実を図ることができたか。	(A) B C D
③ 職員共同による事業推進、問題解決を図ることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○情報の共有に努め、外部の関係諸機関との連携を図りながら、問題の早期解決に向けて学年や学部全体で取り組めた。</p> <p>○進路実現、進路意識向上に向けて担任・学年団・進路支援部が連携し、各学年に応じた支援を充実することができた。</p> <p>○「働く人になる」という目標を常に意識し、作業学習や職業の授業を中心にあらゆる機会を通して、生徒の実態に合わせた指導支援を行った。</p> <p>▲特定の教員にどうしても負担がかかる場面があるので効率よく分担していく。</p> <p>▲進路実現に向けた学習・生活支援を更に充実させる。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに生徒一人一人の進路実現に向けて進路支援部を中心として3年間を見据えた学習・生活支援の充実を図る。</li> <li>・情報推進担当が中心となってICT機器を活用した学習活動を職員で共有し実践する。</li> <li>・学年だけではなく、朝会や学部会での情報共有を図り、学部チームで支援する力の向上を図る。</li> <li>・改訂した教育課程をどのように効果的に運用していくかを学部会や部内企画委員会で検討していき実践していく。</li> </ul>

自己評価【 教務部 】

年間目標	・児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動と学習評価の充実を図る。
現状及びアンケートの結果分析等	・学校関係者評価では ICT の活用や地域連携による体験学習等に関する要望があり、更なる取組の充実が求められる。
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	・小・中・高系統性のある教育課程の編成と教育の質の向上 ・業務の効率化 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域や家庭との連携・協働 ・タブレットを始めとする ICT 機器の効果的な活用と機器の管理
重点目標を達成するための校内組織体制	・学部内、各学部間での情報共有と検討の場となる教科会の運営 ・学習支援に関わる情報の集約と共有 ・学校運営協議会と連携した教育活動、地域資源の開拓と教育計画への反映 ・ICT 推進学年担当と連携した 1 人 1 台タブレット活用の推進
目標の達成に必要な具体的な取組	・学部内と学部を超えての教科会を実施し、系統性のある教育活動の見直しや指導方法の向上につなげる。 ・個々の教員が授業で活用している教材等や学習支援に関わる情報を集約し、サーバー上で共有、活用できるようにする。 ・出席簿のデジタル化に伴う円滑な運用へのサポートを行う。 ・教科用図書（☆本等）の指導書を年間計画作成と学習評価に活用できるように周知を行う。 ・1 人 1 台タブレットを活用した具体的実践を蓄積し、共有していく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校運営協議会、PTA 役員、保護者、関係機関からの意見 ・学部会、職員会、アンケート等による職員からの意見 ・児童生徒の学習状況
取組状況・実践内容等	・教科会を 2 回実施。学部間の情報共有と系統性ある教育活動への検討 ・デジタル出席簿の円滑な運用に向けた取組 ・Teams の校内での運用推進。希望者へのタブレットの貸与とオンラインを活用した教育活動の充実
評価の視点	評価
① 家庭や地域と協力した教育活動が推進できたか	A (B) C D
② 改訂学習指導要領に即して個別の指導計画や年間計画等が効果的に活用できたか	A (B) C D
③ 児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動が実施できたか	A (B) C D
成果 (○)・課題 (▲)	総合評価
○教科会を実施したことにより、教科や各教科等を合わせた指導に関して情報共有を行い、系統性ある教育活動について意識を高めることができた。 ○Teams の校内での運用を推進するとともに、デジタル化した出席簿が円滑に運用できたことで、職員の業務の効率化につながった。 ▲教材の共有フォルダや知的用教科書（☆本）の活用が十分にできなかった。 ▲学校での授業内容や教材の工夫等、具体的な教育活動学校について保護者に十分に伝わっていない（保護者アンケートの結果より）。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・教科や各教科等を合わせた指導の充実につながるよう、教科会を軸とした教育内容や指導方法等の改善を行うとともに、ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できるよう教材の共有フォルダ等の整備と管理を行う。 ・保護者に学校でどのような教育活動を行っているのかを具体的に知ってもらうという目的で「学校だより」の内容見直しと年間 3 回の授業参観を実施する。また教育方針の一つである「地域とともにある学校」の実現のために「ホットいわむら」での情報発信や地域資源の活用を充実させていく。

自己評価【 特別支援教育部 】

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題研究を柱にして、教師としての指導力向上を図るための研修を計画・実施する。</li> <li>・地域の相談ニーズに対応するための支援体制を構築する。</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防を優先しながら職員のニーズに応じた研修を実施するために、内容の精選や実施方法の工夫が必要である。</li> <li>・諸機関における地域支援センターの認識は高まりつつあるが、地域支援センターからの具体的な情報発信や連携体制の構築は十分とは言えない。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題研究を通して校内の教職員の専門性向上と教育実践の充実を図る。</li> <li>・特別支援学校の教育や当校の教育実践について、地域の諸機関と情報共有するとともに理解啓発を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主任を中心とした主題研究の推進</li> <li>・教職員の専門性向上のための情報発信と研修会の計画・実施における他分掌との連携</li> <li>・各学部・分掌、特別支援教育コーディネーターとの連携・協働</li> <li>・地域の特別支援コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等の活用</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主任が中心となり主題研究を進め、実践力の向上を図る。</li> <li>・教職員のニーズを把握し、年間を見通した研修を計画・実施するとともに、各役立つ情報の収集・発信をすることで資質の向上を目指す。</li> <li>・校内のニーズに応じて、医療、福祉、労働等の関係諸機関との連携協力を図る。</li> <li>・必要に応じて地域の特別支援コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等を活用する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動についての職員アンケート</li> <li>・センター的機能事業実施状況や利用者からの意見</li> <li>・関係機関やPTA役員等からの意見</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題研究の軸を「自立活動」とし、研究主任を中心として計画的に、学部内や他学部との意見交流を行い、児童生徒の実態を踏まえた指導目標や指導内容の設定の妥当性やスモールステップについて検討した。</li> <li>・地域の幼小中校等の要請に応じ、支援に関する相談を受けた。</li> <li>・職員のニーズを把握するアンケートを実施し、その結果に基づいて研修を計画・実施した（公開講座2回、「ちょこっと勉強会」を4回）。</li> </ul>
評価の視点	評価
④ 主題研究の活動が適切な「自立活動の指導計画」につながったか。	A (B) C D
⑤ 指導力向上のために適切な研修の計画・実施や情報の提供ができたか。	(A) B C D
⑥ 関係各所との連携体制を整え、センター的機能の充実が図れたか。	A B (C) D
⑦ 地域の諸学校や保護者への情報提供を工夫し、理解啓発が図れたか。	A (B) C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
○主題研究の意見交流を通して児童生徒の捉え方や支援方法について共通理解をしたり深めたりすることができた。また、将来の姿を見据えた支援を意識して取り組む姿につながった。 ○教職員のニーズに合わせた研究や研修を行うことができた。 ▲「自立活動の個別の指導計画」を授業に活かす方途について検討が必要。 ▲センター的機能の実績内容を校内職員で共有し、専門性の向上を図るとよい。 ▲地域や保護者へさらに情報提供を行ってけるとよい。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題研究については今年度の取組をベースとして、授業実践（単元・単位時間）を積み、意見交流を重ねると共に、教務部とも連携を図りながら授業づくりの力を高められるように授業計画や学習指導案の作成などに関する研修も計画していく。</li> <li>・相談実績や他機関の連携状況について、個人情報に配慮しながら情報共有したり、提供したりする機会を計画的に設ける。</li> <li>・文書やHP、センター室前の掲示等で地域や保護者への情報提供を行う。</li> </ul>

自己評価【 健康安全部 】

年間目標	児童生徒及び職員の健康・安全のために、傷病・事故災害の発生を未然に防ぐための危機管理、傷病・事故災害発生時の危機管理、事後の危機管理について、職員全体で組織的に取り組む。
現状及びアンケートの結果分析等	・命を守る訓練の実施や気象警報発表時の対応等、児童生徒の安全に気を配っている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	三つの柱：健康・安全教育、健康・安全管理、組織活動 ・感染症対策（衛生管理）への組織的な取組 ・健康・安全にかかわる各マニュアルの見直しと周知 ・健康教育・食育・安全教育の推進 ・危機管理・安全管理に関する情報発信による事故や傷病の未然防止 ・保護者や関係機関との連携や協力的体制づくりの推進。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学校保健安全委員会（学校医、管理医、学校薬剤師等） ・医療的ケア検討委員会（主治医・指導医との連携） ・食物アレルギー対応委員会 ・防災委員会 ・全職員による月一回の安全点検 ・学校安全衛生委員会（産業医との連携） ・グリーンレポートと事故報告
目標の達成に必要な具体的取組	・医療的ケア研修 ・緊急時対応訓練 ・食物アレルギー研修 ・救急救命法研修 ・歯みがき教室 ・ヒヤリハット報告の分析と対応 ・防災計画の改善 ・命を守る訓練と防災教育の取組の工夫 ・アレルギー対応や異物混入への対応 ・健安ハンドブックの活用 ・感染症対策マニュアルの改訂と周知
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・校内の事故・ヒヤリハット発生件数 ・医療的ケア検討委員会や学校保健安全委員会、安全衛生委員会での検討 ・消防署、安全点検チェック表や清掃状況のチェック・確認 ・各種訓練や研修会後のアンケートによる職員からの意見 ・児童生徒・保護者・職員へのアンケート
取組状況・実践内容等	命を守る訓練や防災学習の実施、給食センター移行に伴い、アレルギー対応の手順を改訂 ・学校医や主治医との連携 ・職員研修や緊急時対応訓練の実施、各種マニュアルの改訂と周知 ・ヒヤリハット報告
評価の視点	評価
⑧ 傷病・事故を予防するための危機管理ができたか。	A B <input checked="" type="radio"/> C D
⑨ 傷病・事故発生時に迅速且つ適切に対応することができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
⑩ 傷病・事故発生時や災害発生時の対応について周知・徹底できたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
⑪ 外部専門機関との連携を図り、指導・助言を活かすことができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
⑫ 保護者・地域関係機関に対して理解や協力を得られたか。	A B <input checked="" type="radio"/> C D
成果（○）・課題（▲）	総合評価
○専門家の助言を得たり様々な想定を工夫した訓練を行ったりすることで、防災学習を推進することができた。 ○警報発表時の引き渡し、怪我や事故等に対する対応を迅速に行うことができた。 ○学校医、主治医、給食センター、保護者等と連携を図り、突発的な保健対応、医療的ケアの実施、アレルギー対応等、安全・安心に努めることができた。 ○清掃、消毒の面で、スクールサポートスタッフや教師業務支援員の活用により、職員の負担が軽減された。 ▲新型コロナウイルス感染症への対応で制限されていた活動が再開する際に、役割分担や手順の整備が必要となる。 ▲学校全体の危機管理意識のさらなる向上。 ▲校外学習充実事業が始まり、実績ができつつある。来年度本格実施がスタートできるように、実施体制や手順について確認と検討が必要である。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	・校外学習と宿泊学習の役割分担や手順を見直し、マニュアルを作成する。 ・主に分掌に属する職員で行っている『ヒヤリハット報告』の取組を継続し、朝会や学部会で報告を重ね、より身近になるよう輪を広げていく。 ・校外学習充実事業について、来年度は全面実施となるため、手順と実施体制について、医療的ケア検討委員会で確認と検討を行う。

自己評価【 生徒支援部 】

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が安全かつ安心して充実した学校生活を過ごせるよう、学校生活全般を通して積極的な生徒支援に努める。</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が愛情をもって児童生徒に接し、良好な関係にある。</li> <li>・MSリーダーズ活動やボランティア活動等、将来の社会自立につながる力の育成が推進できている。</li> <li>・「いじめ防止基本方針」に基づく取組の成果が周知されてきているが、十分ではない。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけがえのない命の尊さや社会生活を送るのに必要なルールやマナーを個々の状況に応じて体得できるよう教育活動全体を通して支援の充実を図る。</li> <li>・仲間とともに、生き生きと活動するために必要な態度や能力の育成をめざす。</li> <li>・関係諸機関との連携を図り、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた生徒支援に努める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒支援部、MSリーダーズを中心とした学校体制</li> <li>・児童生徒の共通理解が図れる連携体制</li> <li>・関係諸機関との日頃からの連携体制</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心した学校生活のための支援、社会生活に必要なルールやマナー指導等の安全に関する支援・指導の徹底</li> <li>・仲間とともに、生き生きと活動できるような児童生徒主体の活動を実施</li> <li>・心のふれあいを大切にし、温かい人間関係を醸成する教育活動</li> <li>・児童生徒理解の深化、保護者や関係機関と連携した適切な教育相談活動の実施</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部会や職員会による意見</li> <li>・児童生徒の集団活動への参加態度</li> <li>・いじめの有無や児童生徒間の協力関係の把握</li> <li>・学校関係者評価</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室、自力通学指導、運転手や添乗員と連携した安全指導。</li> <li>・全校集会、ひびきあい活動、児童生徒会活動等を通じた特別活動の充実や人権意識の高揚。</li> <li>・児童生徒会、委員会活動、MSリーダーズ活動等、児童生徒主体の活動。</li> <li>・部活動の充実と各種大会への積極的参加、トップアスリート出前指導実施。</li> <li>・アンケートや面談、日常的な行動観察等を通じた児童生徒理解、SCや関係諸機関等と連携した教育相談及び生徒支援体制の充実</li> </ul>
評価の視点	評価
① 児童生徒が不安なく学校生活を送ることができたか。	A (B) C D
② 仲間とともに生き生きとした活動ができたか。	A (B) C D
③ 児童生徒の情報が職員間で十分伝わり、個々に応じた対応ができたか。	A (B) C D
④ 個々の児童生徒について必要な連携ができたか。	(A) B C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
<p>○教育相談週間や各種アンケートをもとに、早期の児童生徒支援につなげることができた。</p> <p>○様々な事案に対して、学部や学年間で共通認識のもと指導支援を実施できた。</p> <p>▲特別活動やひびきあい活動等で、仲間（他学部含む）との活動の機会を増やしていきたい。</p> <p>▲児童生徒の生活上の指導支援において、教員の共通認識が不十分であった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策のありなしに関わらず、仲間との繋がりや自己有用感を感じることができる特別活動やひびきあい活動の内容や実施方法等について継続して検討していく。</li> <li>・「学校生活のルール集」を活用し、教員間で共通理解を図り、共通した指導支援につなげる。また、「学校生活のルール集」の内容を再検討する。</li> </ul>

自己評価【 進路支援部 】

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるように、早期からの継続的、組織的な支援を行う。</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等部の卒業後の進路を具体的に意識した取り組みは高等部に集中している。全校に進路に関する活動の紹介を通信やホームページ、PTA 研修を通じて行っており、保護者アンケートでは概ね理解を得られているが、一方で「わからない」という回答もあり、情報不足である部分を感じる。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤労観・職業観を身に付けるとともに、将来に対する目的意識をもって、自己の進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成する。</li> <li>最新且つ必要な進路情報の提供と関係機関へ繋ぐ支援。</li> <li>職場開拓及び卒業生への追支援。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路先の決定、中高作業学習やRVB、実習等を通じた、学年や学部との連携とキャリアパスポートの作成と活用等を通じた分掌間連携。</li> <li>外部関係機関と連携した支援ネットワーク体制と交流、イベントの実施。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の状況や社会の動向に対応して各種実習や体験学習、作業学習、キャリアパスポート、職業に特化した取組についての見直しを図る。</li> <li>福祉行政、福祉事業所、ハローワーク、職業訓練校等からの定期的な情報収集と学校だより、ホームページでの情報発信及びイベントの実施。就業・生活支援センターと連携した追支援と職場訪問、職場開拓の実施。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や活動の目標達成度と適切な進路決定。</li> <li>児童生徒、保護者、連携関係機関からの意見、感想。学校アンケート。</li> <li>卒業生の就学、就業、定着の状況。卒業生や関係機関からの意見。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路だより・キャリアパスポート・作業学習集中週間（中）・現場実習、インターンシップ、企業内作業学習（高）、企業事業所見学（中高）</li> <li>合同説明会への参加（中高）・卒後支援・職業（高）・進路研修（教員、保護者）</li> </ul>
評価の視点	評価
① 個々の児童生徒に応じた進路学習ができたか。また卒業学年を希望に沿った適切な進路先へ繋ぐことができたか。	(A) B C D
② 提供できた情報は量、質ともに十分だったか。	(A) B C D
③ 外部との連携を図り、適切な卒後支援ができたか。また当校の理解啓発が進み、新たな職業や職場が開拓できたか。	A (B) C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
<p>○教務部と連携したキャリア・パスポートの活用（小・中学部）。</p> <p>○小学部保護者を対象としたキャリア教育講座の実施。</p> <p>○中学部作業学習集中期間の拡大充実。</p> <p>○職業的な内容の充実（適切な進路選択に繋がってきた）。</p> <p>○中学部生徒、保護者の参加による合同説明会の充実。</p> <p>▲事業所や会社を直接訪問して卒後支援を行うことができない進路先があった。</p> <p>▲作業製品の取り扱いの整備。販売会の実施や、販路の拡大を通じた当校の理解啓発。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学を目指す生徒に対応できるように教務と連携して進学に関する情報や手順を把握しておく。</li> <li>合同説明会と事業所見学が連動するように工夫し、生徒や保護者がより主体的に情報を集め、進路について動き始められる環境をつくる。</li> <li>就業・生活支援センターや計画相談支援事業所等と連携を図り、適切な卒後支援や情報共有を行う。</li> <li>作業学習では作業製品の取り扱いや販売についての整備や記録、適切な周知を図る。</li> </ul>



## 自己評価【渉外部】

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化をはかる。</li> <li>・学校や児童生徒をとりまく地域の人や関係機関との交流を深める。</li> <li>・災害時に対応できるPTA組織と意識づくり。</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コロナの影響で学校に行ける機会がほとんどなくなり、子どもたちの学校での様子を見ることがないので、分からないことも多い」との意見が多数あったことから、広報誌等で活動の発信・報告に力を入れる必要あり。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員会活動において、会員による主体的な計画、準備、運営を図る。</li> <li>・各種委員会の活動内容の発信に力を入れる。</li> <li>・災害時に対応できるPTA組織と会員の意識づくり。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間で連携できるような係分担、PTA各委員会の担当者を決める。</li> <li>・PTA役員や会員との連携を図り、PTA活動を円滑に進める。</li> <li>・災害時に対応できるPTA組織と校内体制との連携を確立する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと学校担当者との連絡を密に行い、協力して円滑な活動を進める。</li> <li>・研修会を通してPTA会員の学びや交流の機会を図る。</li> <li>・地域や岩邑小中学校に当校PTA行事などを案内。</li> <li>・災害時に連絡・活動できるPTA組織づくりと危機意識を高める。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA役員会、各委員会が円滑に開催され、PTA行事が、役員、会員、学校と連携して効率よく開催されたか。</li> <li>・PTA行事を地域や関係機関に向けて呼びかけ、当校の理解を深めるための活動ができたか。</li> <li>・災害時に対応できる組織づくりと危機意識はできたか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「恵那市・中津川市 企業・福祉事業所等合同説明会」をPTA研修会として実施した。</li> <li>・保護者や地域関係諸機関にPTA行事や当校の活動内容を知っていただくために、広報誌に児童生徒の活動写真を多く掲載した。</li> <li>・防災に関する研修会やロックビレッジコンサート、役員会、校外会議等、実施することができた。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化を図れたか。	A (B) C D
② 学校や児童生徒をとりまく地域の人や関係機関との交流を深められたか。	A (B) C D
③ 災害時に対応できる組織づくりとそれぞれの危機意識がもてたか。	A (B) C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
○高等部1・2年生の保護者を対象とした「恵那市・中津川市 企業・福祉事業所等合同説明会」では、PTA役員の協力のもと、円滑に、さらに充実した内容で実施することができた。 ○「オリジナルリースの作製と飾り付け」を企画し、実行することができた。 ▲自主的なPTA活動の推進、活性化にさらに力を入れる。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭りやPTA奉仕活動等、コロナ禍でもできる内容を考え実施する。</li> <li>・PTA役員や会員と連携を図りながら、自主的な活動の推進、活性化を図る。</li> </ul>

**【意見・要望・評価等】**

- コロナ禍ではあるが、できる工夫をしながら地域資源を活用した体験活動の充実が図られている。
- 地域の人たちの協力を得るには、学校がどのような協力を求めているのかニーズを地域に発信すること重要である。
- 地域の人にとって学校が身近に感じられるための情報発信が必要である。
- 学校間交流や居住地校交流、現場実習等、同年齢の児童生徒や一般の人々に関りをもつことは、児童生徒が力を身に付けることに加え、将来、地域社会で暮らすにあたって地域社会の人々の理解を得ることにもつながるため今後も大切にしてほしい。
- 卒業後の就労や生活を見据えて、年齢の低いうちから挨拶やマナー等身に付けることや、職場体験や宿泊学習、公共交通機関の利用等の体験的な学習に引き続き取り組んでほしい。
- 児童生徒が楽しく学べるためには、児童生徒、保護者が教職員に相談しやすい関係づくりや、学校としての体制づくりが重要である。

**【来年度に向けて】**

- 保護者や地域への情報発信の在り方について引き続き検討・工夫し、充実を図る。
- 地域資源・人材の情報を整理し、職員間で共有するとともに、地域資源を生かした体験的な学習について、学年に応じて重点的な目標や学習内容について整理する。
- 各分野において教員の資質向上と学校としての組織的な取組の在り方を課題とする。
- 各学部・分掌の「来年度に向けた改善方策案」を実践する。